

平成28年度第1回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：平成28年8月26日（金） 13時～15時

場所：教育委員会室

議事 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

■資料1-1、1-2に基づき事務局より説明

■主な意見

- 教育に関しては、数値のみでなく、質的な変化を見ることが重要
- 点検・評価は、数値の変化の要因を分析し、それに基づいて改善方法を考えることが目的。
- 数値目標の設定にあたっては、維持するための数値や徐々に積み重ねていく数値等種類を区分した上で進捗状況をチェックすることが重要。
- 評価にあたり、質的なことについてもしっかり評価することが重要。
- 教育委員の学校視察については、いい事例のみでなく、学級崩壊等のうまくいかない事例も対象とし、何が必要かを見極めることが必要。
- コミュニティ・スクールについては、今後、それが実際にどのように役割を果たしていくかが重要。これについても、質的な評価が必要。
- 高校のコミュニティ・スクールについては、地域をどのように捉えるか等の課題がある。今回導入予定の3校での成果と課題をしっかりと検証することが必要。
- コミュニティ・スクールの取組の情報はどんどん公開し、相乗効果を生みながら充実させていくことが重要。
- コミュニティ・スクールの取組を通じて、生き抜く力育むことが重要。
- 家庭教育の充実に向けて、親が相談できる場を確保することが重要。
- 不登校に関して、必ずしもいじめや暴力などの問題行動だけでなく、学力の低下等が要因となることもあり、要因分析をしっかりとし、今後の取組にフィードバックすることが重要。
- 学生時代に成績優秀だった子が企業に入って、他の社員とのコミュニケーションでつまづくことがある。何か生き抜く力を刺激する施策が必要。
- グローバル人材の育成について、現場でちゃんと外国人に伝わるような、実学に近いことを学ぶことが重要。
- 通学時のあいさつ・声掛けについて、教育の立場と警察の立場では考え方が異なることがあるが、現場の対応の確認が必要。